
クラムボン[®]は山梨の夢をみたか？

やまだ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クラムボンは山梨の夢をみたか？

【Nコード】

N0943Q

【作者名】

やまだ

【あらすじ】

夜道を歩く話です。続きを書きたいけれども

。残業の帰りに二人で道を歩いていた。午前3時位で夜は当たり前のように暗かった。さっきまでオフィスで、ピカピカと光る蛍光灯に照らされていたので、外がこんなにも暗闇なことに違和感を覚える。帰り道を照らす懐中電灯が僕たちの命綱だ。

僕とやまもとさんは真っ黒に塗りつぶされた街の中をゆっくりと歩いている。くらいですね、そうですね。と時々言葉を交わす。家近いんですか？あと10分くらいですぐ。

GWどつかいくんですかと聞いたら、やまもとさんは山梨にね。と言った。

山梨ですかーと僕は言った。

山梨。僕は山梨についての知識を脳みその中からかき集める。山梨。富士山。自然。樹海。クラムボン。やまなし。宮沢なんとか。

「たしか、宮沢賢治の出身地でしたよね！山梨って！」
やまもとさんは薄く笑った。

「あのひとはね、岩手のひとよ。あそこもいいわよね。冬に行ったら寒いけど。」

僕は勘違いを恥じた。馬鹿ですんませんとか言い訳する代わりに、山梨のどこにいくんですか？とやまもとさんに問う。

「友達にね、あいにくの。農業をやってて。遊びがてらにお米の苗床のお手伝いするの。」

虫をとったり、水をやったり、新芽がしっかりと根をはるように苗床の土を指でギュっておさえていたり。

「まあ友人は手伝え、なんて一言も言っていないの私が好きなもんだから勝手にやっているだけ。」

農業好きなんですかと僕はいう。やまもとさんは小柄で色も白い。まるで箱庭で育ってきたように見える人だ。だからさっきのやまもとさんの告白は少し衝撃だった。

「新芽とか植物が好きなの。それを扱う作業も。だから将来は田舎に引っ込んで農業。ってね。アナクロなことよく考えるの。」

僕は「あなくろ」の意味が良くわからなかった。でもやまもとさんの将来の庵については、とても良いな。と思った。

僕は植物といったら花屋に置いてあるようなまるで造花のような出来のいい花。街路樹や、雑貨屋で売ってあるサボテンしか思い浮かばない。

「僕もそこ、連れてってください。」

やまもとさんは簡単にいいわよと言ってくれた。

そのとたん、GWに友達とさがみ湖に行く約束を思い出してしまった僕は泣きそうになった。

（後書き）

まえどこかで投稿したものの使いふるしです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0943q/>

クラムボン は 山梨の夢をみたか？

2011年1月16日07時01分発行